

| | | | | | |
|------|--------------------|--------|----------|------|-----|
| 科目名 | 法学と政治学の世界 | | | | |
| 英語科目 | | ナンバリング | GHpn1101 | | |
| 開講期 | 春／秋 | 開講学部等 | 共通教育科目 | 配当年次 | 1年次 |
| 教員名 | 上野 達也, 中井 歩, 中山 茂樹 | | | | |
| 単位数 | 2単位 | | | | |

授業概要／Course outline

社会は、考え方も利害も異なる無数の個人や団体から構成されています。そこでは、利害を調整したり紛争を防止・解決したりして、秩序と平和を守らなければなりません。法学は、権利・義務という道具だてと法規範というルールを使って利害調整や紛争解決する方法を考えます。これには、私人と私人の関係を対象とする「私法」と、国家と国民の関係を規律する「公法」とが含まれます。政治学は、政治を学問的に、時代の変化を踏まえ、さまざまな事例と比較しつつ分析していきます。この講義では、公法学・私法学・政治学の基本的なものの見方を、具体的な事例を考えながら学びます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

第1回～第4回（政治学）と第9回～第12回（私法学）については、授業（内容もしくは録画）の動画を配信します。

第13回～第15回については、moodleにある教材（動画、書類、課題）などにより、各自で遠隔（オンライン）で学習する形式です。

授業内容・授業計画／Course description・plan

【政治学】

第1回 ガイダンスと政治学(1)：政治と学問（対面授業）

本講義全体の形式・内容と評価方法についてのガイダンスを行う。

政治学領域についての授業方法・課題の形式などについて理解し、政治現象を権力・公共財などの概念から考察する。

第2回 政治学(2)：政治と時代（対面授業）

国家や政府のあり方や役割が時代とともに変化してきたことを理解し、今後の政府のあり方について考える。

第3回 政治学(3)：政治と比較（対面授業）

社会科学における比較の意味を知り、政府のあり方や制度が国によって異なることを理解して比較から考える。

第4回 政治学(4)：日本の政治（対面授業）

戦後日本政治の主な特徴について、政治家・官僚制（公務員）・社会集団の関係などから考える。

政治学領域について質問を受けて、解説授業を行う。質問は期限までにmoodleの掲示板を通じて提出すること。

※政治学（第1回～第4回）については、授業で話す内容の動画（講義動画のオンデマンド配信）と書面（講義レジュメのmoodle掲載）で予め提示します。予習・復習に活用するようにしましょう。

【公法学】

第5回 公法学(1)：立憲主義（対面授業）

法と政治はどのように関係しているのかについて考え、異なる価値観をもつ人々が社会にすることを前提にした統治の原則としての立憲主義について理解する。

第6回 公法学(2)：統治のしくみ（対面授業）

立憲的な統治のしくみとしての議会制民主主義と司法権の独立について理解する。

第7回 公法学(3)：基本的人権(1)（対面授業）

「国家からの自由」について、憲法上、どのような「自由」が保障されているのか、また、なぜ保障されているのかについて考える。

第8回 公法学(4)：基本的人権(2)（対面授業）

「国家による自由」について、憲法上、どのような「自由」が保障されているのか、また、なぜ保障されているのかについて考える。

※公法学（第5回～第8回）については、対面で授業を行います。授業の録画等の動画配信の予定はありませんので、予習した上で、教室で授業を受け、ノートをとるようにしてください。予習課題に授業中に口頭で答えてもらうこともあります。

【私法学】

第9回 私法学(1)：私人間の紛争を解決する方法（対面授業）

私人間で紛争が生じた場合、その解決のためにどのような法制度が存在するのか理解する。

第10回 私法学(2)：財産関係と法（対面授業）

私人間の取引・財産関係について、法がどのような制度を設けているのか理解する。

第11回 私法学(3):家族関係と法(対面授業)

法が「家族」をどのようにとらえているのか、どのような制度を設けているのか、最新の判例を踏まえた上で理解する。

第12回 私法学(4):市民生活と法(対面授業)

我々が市民生活を送る上で関係する身近な法制度として、どのようなものが存在するのか理解する。

※私法学(第9回～第12回)については、90分の授業時間のうち、最初の10分はmoodle上の「授業課題」に解答してもらいます(ですので、授業には必ずノートパソコン等の機材を持ってきてください)。その後、残りの80分で解説を行います。また、私法学の授業は対面で行いますが、復習用にそれをTeamsでレコーディングし、Teamsでオンデマンド視聴できるようにする予定です。

【総合】

第13回 e-learning(1):ガイダンス・総合(遠隔授業)【締切 春学期:4月末、秋学期:10月末】

講義全体のテーマ、講義の形式・内容と評価方法について確認し、ミニテストを受験する。

第14回 e-learning(2):学際・総合(遠隔授業)【締切 各学期の授業期間最終日】

3つのテーマについてそれぞれmoodle上の教材を使って学習し、ミニテストを受験する。

第15回 e-learning(3):まとめ・総合(遠隔授業)【締切 各学期の授業期間最終日】

moodle上の教材を使って学習するとともに、本講義の内容と評価方法について再確認し、ミニテストを受験する。

準備学習等(事前・事後学習) / Preparation and assignments

【政治学】第1回～第4回

[事前学習]事前に指示された言葉の意味について辞書などを引いて調べ、用例を考えて意味を確認する。

[事後学習]ノートを整理・見直した上で、moodle上の復習テストを受験する。質問があればmoodleの掲示板を通じて提出する。

【公法学】第5回～第8回

[事前学習]各回moodle上に予習課題を掲載するので、それに応える。

[事後学習]各回の授業内容を復習した上で、moodle上の復習課題に取り組む。

【私法学】第9回～第12回

[事前学習]moodle上の「授業前課題」に取り組む。

[事後学習]授業中に取り組んだ「授業課題」と授業の解説を振り返った上で、moodle上の「授業後課題」に取り組む。

【総合】

第13回

[各自学習]moodle上の教材や配布された教材を読んで、その内容を理解する。

[事後学習]ミニテストに答える。【締切 春学期:4月末、秋学期:10月末】

第14回

[各自学習]moodle上の教材を読んで／見て、その内容を理解する。

[事後学習]ミニテストに答える。【締切 各学期の授業期間最終日】

第15回

[各自学習]これまでの学習内容を振り返り、moodle上の教材を読んで、その内容を理解する。

[事後学習]ミニテストに答える。【締切 各学期の授業期間最終日】

※なお、各回2時間の授業に対して、事前・事後学習が4時間必要です。

授業の到達目標 / Expected outcome

法学と政治学の基本的な考え方を理解し、社会の諸問題を法学・政治学的観点から捉えることができるようになること。

身につく資質・能力 / Competencies to be attained

- ・ 思考力
- ・ 幅広い教養

履修上の注意 / Special notes, cautions

法学部生は履修できません。

第1回において課題、配点、e-learningの方法等について説明をするので、必ず受講するか、授業動画を視聴すること。

課題の締め切り等についてはmoodleで最新情報を確認すること。

評価方法 / Evaluation

授業内課題(50%) + 定期筆記試験(50%)

なお、授業内課題で30点以上得点していない学生は、定期筆記試験の受験資格がありません(試験を受けても採点されません)。

思考力：論理的な思考ができているかを、定期試験や各回の授業課題等を通じて評価します。
幅広い教養：法学と政治学の基礎知識と考え方を備えているかについて、定期試験や各回の授業課題等を通じて評価します。

教材／Text and materials

教科書：なし
参考書：吉永一行（編）中村邦義・二本柳高信（著）『法学部入門（第4版）--はじめて法律を学ぶ人のための道案内』（法律文化社、2022年）
参考書：君塚正臣（編）『高校から大学への法学（第2版）』（法律文化社、2016年）
参考書：君塚正臣（編）『高校から大学への憲法（第2版）』（法律文化社、2016年）
その他の講義資料等は、適宜moodle上に掲載したり、配布したりします。

質問や相談の方法／Instructor contact

- ・この講義は3人の教員によるリレー形式です。その回の内容や課題については、その回の担当教員に質問するようにならしてください。
- 第1回～第4回：中井、第5回～第8回：中山、第9回～第12回：上野
- ・メールで問い合わせをする場合には、moodleに掲載されているメールアドレスに送りましょう。但し、moodleからのお知らせメールに対して「返信」をしても、宛先は「no-reply」となって担当教員には届かないので注意しましょう。
- ・moodleの掲示板・フォーラム等でも質問などを受け付けます。